

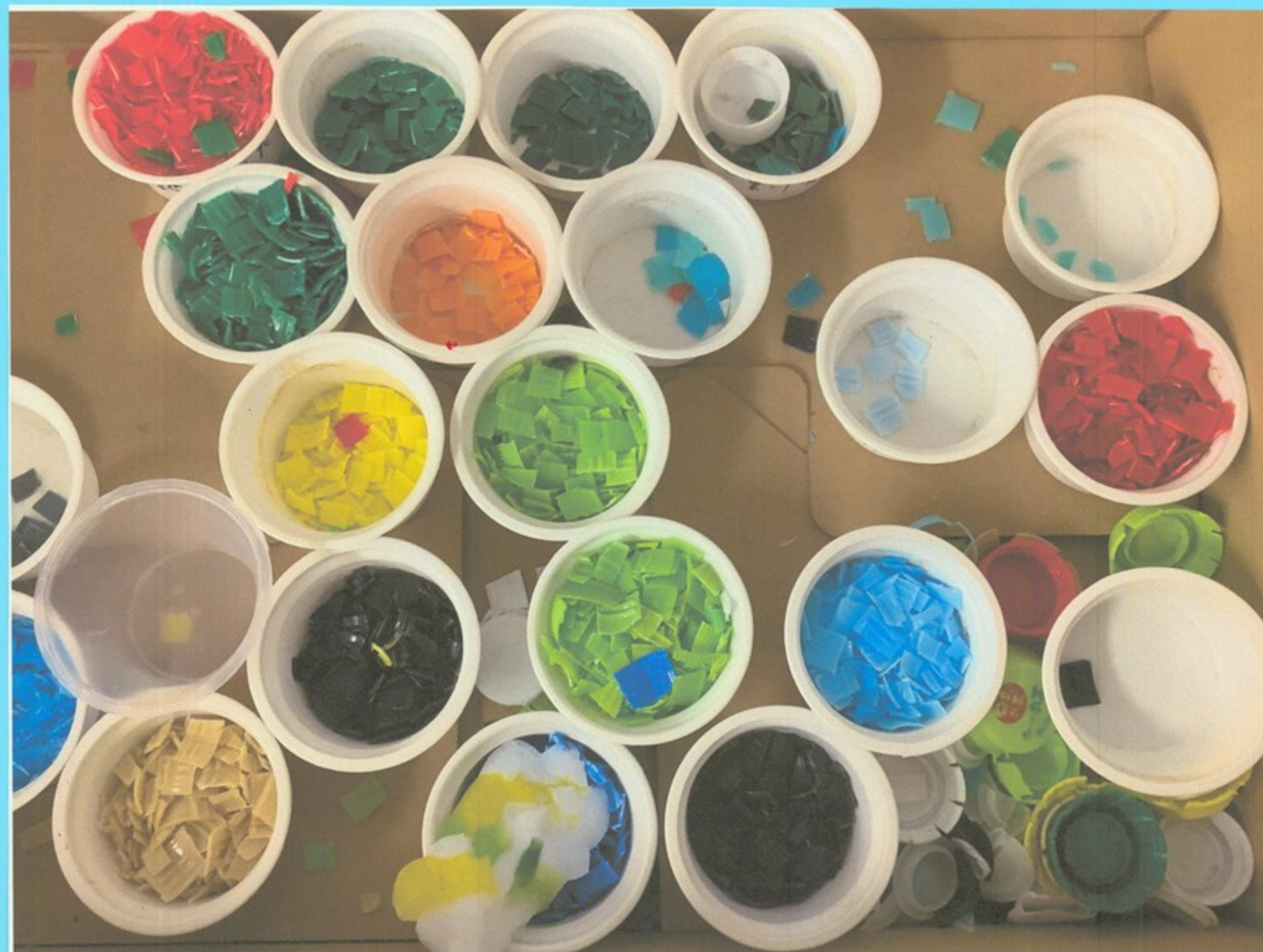


今私たちがやっていること

～西前5-1～

私たちはいま、ペットボトルキャップ切ったものをアイロンで伸ばして溶かし、小物を作る活動をしています。

なぜ私たちがこういった活動をしようとしたのかというと、ペットボトルキャップが捨てられていて、それを何かに使えるかと考えたところ、小物を作るときに使えると思ったからです。さらに私たちは、幼稚園児たちとのふれあい活動や、ペットボトルキャップで作ったものや、古着をリメイクして作った小物を販売し、その売上金を募金することを最終目標としています。ですが、私たちはまだ試作の段階で工夫できる点を探しています。どのような商品を作るのかさらに検討していきたいです。



5の2生き物調査隊



5年2組では、外来種について調べたり、その対策について考えたりしています。きっかけは、5年2組でメダカを飼っていたことです。メダカを育てていく中で、地域にいる身近な生き物に興味を持ったからです。みなさんには外来種のことを知ってもらい、悪いばかりじゃないことや、外来種を捨てること・放つことの危険さを感じてほしいです。

〈外来種が起こす問題〉

(1) 日本にもともと住んでいた生き物や自然への問題
もともとその地域に住んでいた生き物を、食べたり、エサを横取りすることで、もともと住んでいた生き物を絶滅させたり、その地域に成立していた生態系（せいたいけい）のバランスを崩してしまふ。

(2) 人間への問題
毒をもっていたり、人間をさしたり、かみついたりする。

(3) 農業・林業・漁業への問題
畑の作物を食べってしまったら、漁師さんがとる魚を食べしてしまう

特に、もともと住んでいた外来種を絶滅させてしまうということは、絶滅した生き物を再び生き返らせることはできないため、これまでに長い時間をかけて進化してきた生き物が、永遠に地球上からいなくなってしまうこともあります。

〈外来種ってなあに？〉

もともと日本にいないで、人間によってちがうの国から日本にきた生物のことです。有害な動植物や植物を追い払うために持ち込まれたものが多いです。持ち込まれた生物以外にも、人間についてきてその国に定着してしまった生物もいます。また、木材や船についてきた生物も外来種といえます。

日本には、外来生物が2000種以上も住んでいるといわれています。この2000種、ぜんぶが問題になっているわけではありません。多くの外来生物は、やってきた地域の自然になじみなかったり、限られた地域でしか生活できず、問題にならないことが多いです。でも、やってきた地域の自然にうまく入りこみ、数をたくさん増やして、問題を引起こすものもいます。

でも、絶対に悪いというわけではありません。大切なのは、外来種というくりではありません。

〈国内外来種もある！〉

外来種は、違う国からきた生き物だけではなく、国内外来種とは、国内の別の地域から持ち込まれた生き物のことです。国内外来種には、例えば、もともと北海道にはカブトムシはいなかったのに、本州などから北海道につれてこられたカブトムシは外来生物になります。

〈身近な外来種〉

私たちの生活に身近な外来種としては、シロツメクサ、セイヨウタンポポ、アメリカザリガニ、ミシシッピアカミミガメ（ミドリガメ）、アライグマなどがいます。



シロツメクサ



セイヨウタンポポ



モンシロチョウ



アライグマ



アメリカザリガニ



ミミガメ



ミドリガメ

宣伝のためのゲームを作っています。

キャップ回収の箱

5年3組はペットボトルキャップを集めています。その活動を紹介します！！

宣伝のためのゲーム完成！！

みんなで頑張ったペットボトルキャップ

全校のみんなに協力してもらいました！！

どうして、ペットボトルキャップを集めるのか??

どうしてキャップを集めているかというと、キャップを集めてワクチンの元となるペレットを作り、世界中にいる困っている人たちを助ける活動をするためです。けれど、1人分のワクチンを作るには、約1000個ほどのキャップが必要になります。

そもそもペレット、ワクチンとはなんなのか？

ペレットとは、ペットボトルキャップを集め、粉々、綺麗にし、溶かして、また、粉々にしてできるものです。そのペレットを売ったお金で買えるのが病気を予防するためのワクチンです。世界には、ワクチンを打つことで助かる命がたくさんあります。